

## 第5回 台東区学校教育情報化推進検討委員会

開催日	令和3年6月10日(木) 14:00~15:15
場所	Zoomによるオンライン開催
出席委員	有村委員、油木委員、渡辺委員(宇佐見委員代理)、田中委員、瀬川委員、梶委員、越智委員、関井委員、川田委員、佐々木委員、瀧田委員、工藤委員
欠席委員	落合委員
配布資料	資料1 「台東区学校教育情報化推進検討委員会設置要綱」の改正について 資料2 台東区学校教育情報化推進検討委員会 委員名簿 資料3 台東区学校教育情報化推進のための環境整備 資料4 台東区立学校における教育情報化の基本的な考え方(案) 資料5 台東区学校教育情報化推進計画の骨子について(案) 資料6 台東区学校教育情報化推進検討委員会 令和3年度の開催予定について(案)

### ■議事概要

#### 1. 開会

#### 2. 委員長・副委員長選出

出席委員の中から有村委員を委員長に選出。また、委員長より教育委員会事務局次長の梶委員を副委員長に指名。

#### 3. 議事

(1) これまでの検討の経緯について  
資料3及び資料4について、事務局より説明。

#### ○各委員からの意見

##### 【田中委員】

- ・子供のGIGA端末を「自分の考えを表現する道具」というだけでなく、高速のネットワークやクラウド利用が重要であり、その辺りの踏み込みが少し不足しているのではないか。
- ・この端末のサービスを使って、問題解決に役立てるということが入っていると良かったのではないか。
- ・ICT活用の目標を頻度で測っていくのはよいこと。
- ・教員の中では、端末を「教具としての活用」と「子供の文房具としての活用」というように理解が混沌としている。

#### 【渡辺委員】

- ・学校で学んでほしいのはコミュニケーションである。物事の結果は端末で調べられるが、結論に至るまでの論理的な考え方というのは会話の中で育まれるものなので、ICTを活用して今まで以上に能力を上げてほしい。

#### 【油木委員】

- ・保護者の中で、端末を使用することの理解が進んでいない。端末を持ち帰った時の使い方や考え方が分かりやすくなると、保護者が子供の学習や学校の教育環境を理解することに繋がるのではないか。
- ・今の子供たちはデジタルネイティブと呼ばれる世代であり、ネットリテラシーを家庭でも教えていくべきだし、学校でもやってほしい。
- ・子供たちがタブレットをどのように使っているのか、例えば朝の会を Teams でやっている等、学びがどのように今後進んでいて、よりよいものになっていくかの道筋が分かるとよいのではないか。

#### 【瀬川委員】

- ・現場の教員は試行錯誤しながら取り組んでいる。端末に導入されているソフトウェアを教員同士でお互いにやっている者もいるが、使いこなしてはいない。
- ・持ち帰りについては、端末で見放題になってしまうため、使い方をもう一度確認しないと、持ち帰りを実施することのハードルが高いのではないか。

#### 【田中委員】

- ・端末は道具なので、たまにしか使わなければ上手に使うことができない、従って毎日使うことが重要。
- ・持ち帰りをさせたいが、持ち帰った次の日の朝に充電保管庫に AC アダプタを差し直すのが大変であり、その辺りがスムーズになるように、普段使いができるような形にしてほしい。
- ・学校のホームページで端末利用の実践を見える化して、保護者に活用状況を見てもらうことも必要ではないか。

#### ○委員長からの意見

- ・教員は、ICT 教育を学び、子供は問題解決を通して学ぶ。端末は学びのための道具である。
- ・今回の学習指導要領では、考える力を育てることが、これからの学習で求められている。
- ・保護者からすると、子どもが好ましくないような使い方をしているのではな

- いかと疑いを持ってしまうと、規制が入り、本来の学びを高めていけない。
- ・端末を使っていくと、自分がいつも持っているノートや鉛筆と同じように自己責任で自己管理できるようになってくる。ハードルは高いが、時間をかければ日常になっていくのではないか。

#### ○事務局の見解

- ・使う環境にあることが大事で、今まで教員が話して一斉に子供が学ぶというスタイルをある程度変えていかなければいけない時代になっている。
- ・道具として1人1台持っているので、それをいかに使っていくかが大事であると認識している。
- ・本日いただいたご意見を踏まえて計画の策定を進めていく。

#### (2) 今後の委員会の開催について

資料5及び資料6について、事務局より説明。

#### ○各委員からの意見

##### 【田中委員】

- ・骨子なのでそんなに大きく修正するところはないと思う。危惧しているのは、第4章の基本方針の「コンテンツ」という言葉が、一般的に聞くとどのようなソフトウェアを使うのかといった誤解を招く可能性がある。
- ・環境整備の中の8ページ「児童生徒の情報活用能力の評価指標の数値化に関する開発を行います」とあるが、具体的にどのような形で、どのようなものを開発していくのか。また、現時点でそういったものはあるのか。

##### 【渡辺委員】

- ・数値化ということに関して、これは他区または国・都とデータが共有されたりするのか。また、アンケートの話があったが、吸い上げた情報のプライバシーがどこまで守られるのか。家庭における安全安心なICT環境は、これからICTを活用していく上で、非常に重要になると思う。

#### ○副委員長からの意見

- ・端末を全校に配布して、学びのための道具としてこれからいかに活用していくのか、また、端末を持ち帰る際のルールやネットリテラシーについて、学校と家庭がそれぞれどのように教えていくのか、周知していくのが重要になってくる。

#### ○委員長からの意見

- ・システム、コンテンツ、フォローアップという3つの基本方針の言葉の使い

方について、吟味してほしい。

- ・成果指標については、数値化が行政として必要な部分ではあるが、それだけでなく事例を小中学校別または学年別に集めたり、教科別に集めてみてはどうか。
- ・情報が毎日錯綜する時代なので、何かあったら事務局へ情報を伝えてほしい。

#### ○事務局の見解

- ・コンテンツの用語については、事務局でも案を検討して、またご意見を伺いたい。
- ・成果指標は、教員と子供になるべく負担をかけない方法で実施したい。例えば、Microsoft Forms のアンケート機能を可能な限り使って、回答しやすいような形での調査を取りながら、問題の作成については教員にもご協力をいただきたい。
- ・指標に関しては、令和3年度における区内の状況を基準として、そこからどのくらい伸びていったかということの把握をしていきたいので、他区との比較のようなことは考慮していない。
- ・学びの事例を蓄えることで、他区への発信や、良い事例の共有ができると考えている。
- ・安全安心に関すること、家庭での使い方については、資料5、骨子（案）の最後に資料編を付けて、この中に教育情報セキュリティポリシーを明文化していきたい。国が既に雛形を出しているので、これを台東区の形にどのようにフィットさせるか、今後ご意見を伺いたい。

#### 4. 閉会